

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE)切片を用いた血管壁免疫グロブリン (IgA)沈着の検出法の確立』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 病理診断科 職位・氏名 教授・高橋 啓

【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は IgA 血管炎の患者様から採取された皮膚生検検体のホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE)切片に対する蛍光抗体法が血管壁免疫グロブリン (IgA)の検出に有用であるか否かを明らかにすることを目的とした研究に利用します。

この研究で得られる成果は、将来の IgA 血管炎の患者様の生検部位を減らすことができる可能性があり、生検に伴う患者様の身体的・精神的負担の軽減化につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

試料: 皮膚生検検体のホルマリン固定パラフィンブロックから作製した組織切片

情報: 年齢、性別、生検採取部位、皮疹出現から生検までの日数、凍結切片を用いた蛍光抗体間接法の結果と顕微鏡写真

研究に利用する試料・情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用を開始する予定日】

2024年11月15日より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当せず

【試料・情報の取得方法】

対象者: 2018年1月～2024年3月までに東邦大学医療センター大橋病院 皮膚科において、IgA 血管炎の診断で診療を受けた方約 40 名、また染色が適正に実施されたことを確認するため、腎臓内科において IgA 腎症の診断で腎生検を受け IgA 陽性が確認されている方 (5 名程度)と皮膚科において非 IgA 血管炎で皮膚生検を受け IgA 陰性が確認されている方 (5 名程度)も対象とします。

方法: 当院病理部に保管されている皮膚生検検体の FFPE 切片に対して蛍光抗体直接法と蛍光抗体間接法を行い、血管壁における IgA の染色性を検討します。通常診療で行われている凍結切片を用いた蛍光抗体直接法による IgA の検出感度や染色強度と比較します。

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者：高橋 啓 役職：教授

【利用する者の範囲】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者：高橋 啓 役職：教授

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者：高橋 啓 役職：教授

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年12月31日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は利用いたしません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 病理診断 科

職位・氏名 教授・高橋 啓

電話 03-3468-1251 内線 3430